

アンケート回答数：26件（選手25名、指導者2名）（重複回答）（男：15名、女：11名）

表1 対面講義（カーリング競技）における理解度（n=26）

リッカート尺度	5	4	3	2	1	平均値	中央値
	大変わかりやすかった	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりづらかった	非常にわかりづらかった		
設問	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(SD)	(IQR)
研修会の内容はいかがでしたか？	20	4	1	0	1	4.6	5.0
	76.9%	15.4%	3.8%	0%	3.8%	(0.9)	(5)

*リッカート尺度：5（大変わかりやすかった）4（わかりやすかった）3（どちらとも言えない）2（わかりづらかった）1（とてもわかりづらかった）

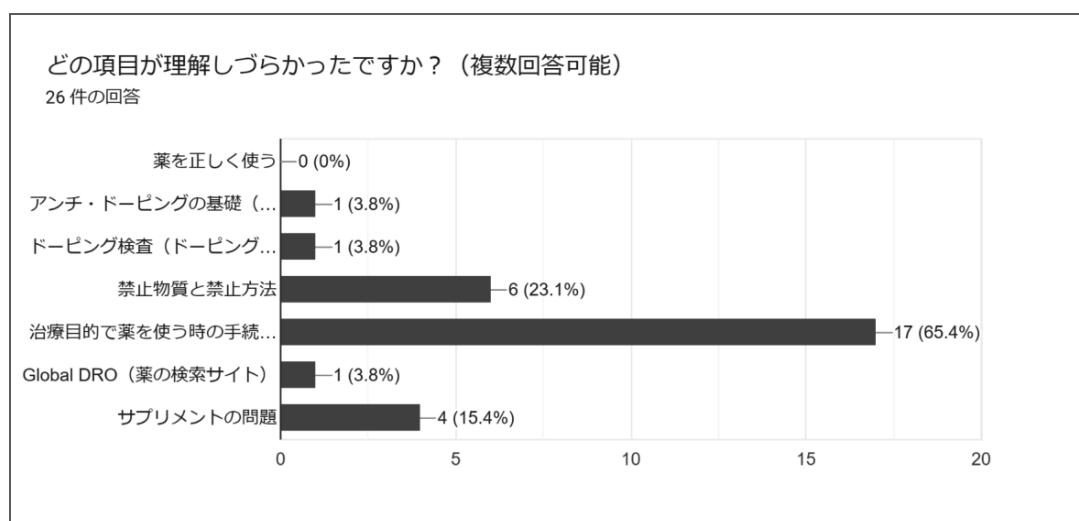


図1 講義内容の中で理解しづらかった項目に対する回答（カーリング競技）

（自由記載への質問：該当者に回答済み）

- ・ Global DROで検索できない市販薬の確認
- ・ 整理中の貧血予防のためのサプリメント使用について

【対面講義】③

講習会名：令和6年度北海道スポーツ協会 女子バレーボール競技合宿講習会

開催日程：2024年9月8日（日）

開催場所：札幌山の手高等学校体育館

講義項目：薬を正しく使う、スポーツの価値、禁止物質の確認、治療目的で薬を使う時の手続き、日常の留意点

配付資料：講義資料、ドーピング検査手順

受講者数：11名（選手：10名、指導者：1名）

【録画配信】

配信録画：「令和6年度国民スポーツ大会出場選手を中心としたアンチ・ドーピング研修会」

a) 2024年6月30日～2025年2月28日配信：（基礎編）知っておきたい アンチ・ドーピング情報

b) 2024年6月30日～12月31日配信：（2024年版）2024年禁止表国際基準改定点

アクセス回数：a) 522回（2025年2月10日現在）、b) 284回

アンケート回答数：a) 109名（2025年2月10日現在）、b) 31名

配信録画詳細：

【基本編】知っておきたい アンチ・ドーピング情報 a)

講義項目：ドーピングの定義、アスリートの役割と責務、ドーピング検査、ドーピング禁止物質と方法、治療使用特例（TUE）、情報を探す

提供資料：1. 研修会講義資料、2. 冊子「教えてください アンチ・ドーピングのこと」（北海道薬剤師会）、3. アンチ・ドーピングカード（北海道スポーツ協会）、4. ドーピングに関する問い合わせ用紙（北海道スポーツ協会）、5. ドーピング検査手順（日本アンチ・ドーピング機構：JADA）、6. 国民スポーツ大会ドーピング検査同意書（日本スポーツ協会：JSPO）、7. 国民スポーツ大会における「治療使用特例（TUE）」、8. アンチ・ドーピング使用可能薬リスト（2024年版）（JSPO）、9. 国民スポーツ大会アンチ・ドーピング教育履歴確認カード、10. 世界アンチ・ドーピング規程2021改定ポイント

【2024年版】2024年禁止表国際基準改定点 b)

講義項目：世界アンチ・ドーピング規程2021、2024年禁止表国際基準変更点

提供資料：基本編の資料1-5と世界アンチ・ドーピング規程2021－改定ポイント－（JADA）

アンケート回答者数を日別値として、2024年度における本大会前後の推移を図2-1【基礎編】、図2-2【2024年禁止表国際基準改定点】に示した。また、回答者背景を表2に、配信録画の内容に対する理解度を表3に記載した。

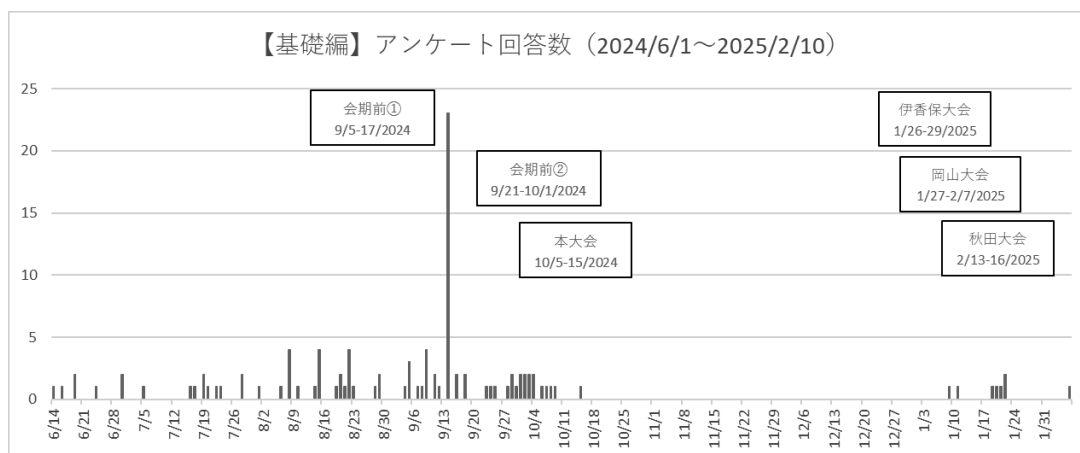


図2-1 【基礎編】アンケート回答数

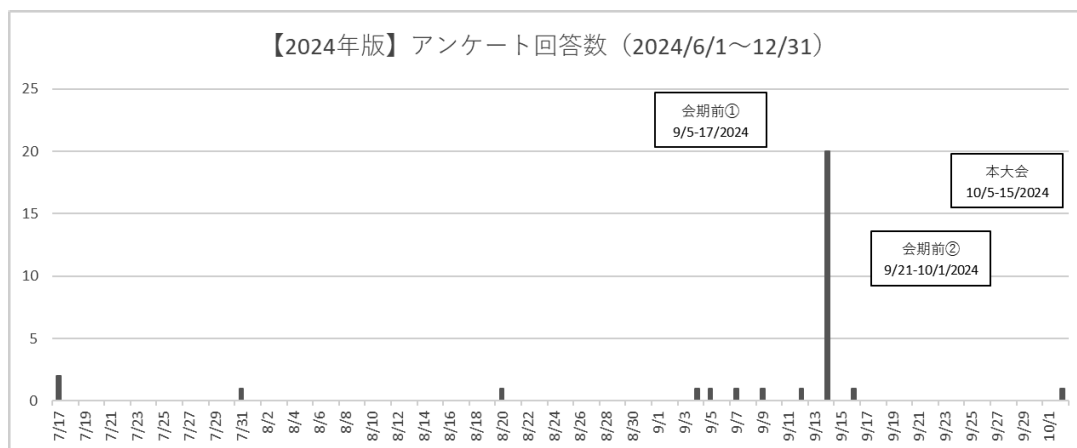


図2-2 【2024年版禁止表国際基準改定点】アンケート回答数

表2 基礎編ならびに2024年度禁止表国際基準改定点動画アンケート回答者背景（n=109, 31）

設問	分類	基礎編	2024年度版
1 年齢	18歳未満	28	4
	18、19歳	14	5
	20代	29	13
	30代	5	1
	40代	17	4
	50代	7	2
	60代	6	2
	70代	3	0
2 性別	男性	56	18
	女性	53	13
3 立場（重複回答あり）	北海道の国体（国スポ）選手	73	23
	北海道以外の国体選手	0	1
	その他の選手	2	0
	指導者	17	8
	医師	1	0
	薬剤師	1	1
	家族・関係者	13	2
	トレーナー北海道の監督	0	0
	監督	2	0
	その他	1	0

表3 録画講習の内容に対する理解度（リッカート尺度）

【基礎編】（n=109）							
リッカート尺度	5	4	3	2	1		
設問	大変わかりやすかった	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりづらかった	非常にわかりづらかった	平均値	中央値
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(SD)	(IQR)
研修会の内容はいかがでしたか？	59	26	18	4	2	4.5	5.0
	54.1%	23.9%	16.5%	3.7%	1.8%	(1.0)	(4-5)
【2024年禁止表国際基準改定点】（n=31）							
リッカート尺度	5	4	3	2	1		
設問	大変わかりやすかった	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりづらかった	非常にわかりづらかった	平均値	中央値
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(SD)	(IQR)
研修会の内容はいかがでしたか？	17	7	5	2	0	4.3	5.0
	54.8%	22.6%	16.1%	6.5%	0%	(1.0)	(4-5)

【考察】

対面講習について、国スポ派遣選手・関係者を対象とした研修会ならびにカーリング競技では講習会後のアンケートを収集することができたが、女子バレーボール競技については、合宿プログラムが本講習会の終了を持って解散となっていたためか、受講後アンケートへの回答がなく情報の収集ができなかった。この結果から講習会のプログラム設定も見直す必要があると考える。

一方で、オンデマンドでは合計806名の視聴と140名からのアンケート回答があったことから、時間や場所を限定せずに受講できる様式が好まれる傾向がさらに強くなっていることが確認できた。特に録画視聴によるアンケート調査では、受講後アンケート回答より、2022年度の調査（平均値 3.8±1.2、中央値 4.0（3-5））と比較1、2023年度は平均値4.0±1.1、中央値 4.0（3-5）、2024年度は「基礎」ならびに「2024年改訂点」共に平均値4.3~4.5±1.0、中央値 5.0（4-5）と理解度が維持されていることから、基本的な情報を録画で学び、その知識を国スポ前に確認する形で対面研修会やワークショップを実施する形が理想ではないかと考える。対面講習とオンデマンド講習を競技レベルやアンチ・ドーピングの知識レベル、あるいは受講環境に合った様式で教育計画を策定することが必要である。

録画視聴の時期については、アンケート回答数から見ると、2023年度（令和5年度）から国体（国スポ）参加条件としてアンチ・ドーピング教育受講が義務化され、その教育履歴は1年前から認められるという条件に伴い、早い時期から受講していたが、大会が近づいてから受講者が増加する傾向は2023年度と同様であった。

講習会の講義内容では、例年、同様の結果を示しているが、一番理解しづらかった項目として、TUE申請を選択する回答が多いことから、TUE申請に関する録画コンテンツなども検討したい。

また、昨今、サプリメントに対するパフォーマンス向上や疲労回復などの効果への期待を背景とするアンチ・ドーピング規則違反が増加する傾向にあることから、国スポ前研修会では、「サプリメントを使う前に」

と題した内容でスポーツ栄養士が講義を行った。しかしながら、アンケート回答については任意としたため回答数が少なく、講義に対する感想を収集することができなかった。今後のアンチ・ドーピング教育やサプリメントや栄養教育向上、さらに受講者の疑問に答えるためにも、受講後のアンケートへの回答を必須とすることを検討したい。

【まとめ】

新型コロナウイルス感染拡大を契機に、教育様式の見直しが行われた。録画視聴によるオンデマンド講習受講者の大幅な増加を見据えて、アンチ・ドーピング教育を立案したいと考える。その一例として、基礎知識をオンデマンドによる録画で提供し、得た知識や情報を対面で確認し、受講者間でも意見交換や疑問点の解決を試みるために、対面講習やワークショップなどの様式で開催できるように努めたい。また、栄養管理の観点からサプリメントについて学ぶ項目も継続して実施したいと考える。引き続き、選手や関係者に向けて薬やサプリメントに対する正しい知識を提供し、学習者自らが考え、行動することでクリーンアスリートとして健康にスポーツが行える環境、スポーツを支える環境づくりに貢献したいと考える。